

今の資本主義ではダメだと自らを社会主義者と呼ぶ若者が増えている」という現地の声を紹介。「『資本主義は邪悪だと思う』という若者の思いが背景にある」と語りました。自身の取材について、「声をあげている人たちが、どんな思いでやつているのか記事ににじみ出るようなものを聞き出せり」と話しました。

ファンズムと 排外主義学ぶ

大阪損保革新懇

大阪損保革新懇は11月27日、第28回総会を大阪市内で開きました。『ファンズムの教室』著者の田野大輔甲南大学教授が「ファンズ

ムと排外主義」と題して記念講演しました。



田野氏（正面）の講演を聞く参加者＝11月27日、大阪市中央区

田野氏は、指導者（教師）のもとで支持者（受講生）が全員で敬礼や行進、糾弾を実践し、集団が暴走する怖さを体験する「ファンズムの体験学習」を動画を交えて紹介。「上からの強制性と下からの自発性が結びついてどんなひどいことでも

も言われたからと無責任な行動が拡大してしまうのがファンズム。そこに達成感や充実感を感じるのがファンズムの危険な魅力だ」と強調。これがヘイトスピーチや排外主義につながっていくとし、体験学習はその危険性を理解してもらう点で、世話を理解してもらう点にあると語りました。

世話人の中村啓子さんが「健全な損保産業の再生を職場から考える」として基調報告。職場の実態を報告し、「まともな働き方なしにまともな仕事はできない。人間らしい働き方を取り戻そうと職場の仲間に呼びかけよう」と訴えました。代表世話人の張間恵樹氏が開会あいさつ。総会アピールを採択しました。